

新聞を読んで主体的に学ぶ生徒へ

猪名川町立六瀬中学校 校長 中西 一成
教諭 千葉 舞

1. はじめに

本校は阪神地区の北部に位置し、北摂の山々に囲まれたのどかな田園風景が広がる校区で、全校生徒97名の小規模な学校である。幼少期より固定化された交友関係が続いており、必要最小限の言葉で意思疎通が取れる半面、言葉足らずによる生徒間のトラブルが少なくない。

新聞を購読している家庭は半数に達しておらず、購読していても新聞を読む習慣が身についている生徒は少ない。テレビやインターネットから情報を得ている生徒が多く、情報の表面的な内容しか理解していないことがある。物事を掘り下げて深く考えること、物事の本質に迫るような核心を突く学びが苦手な現状がある。

また、自分の感じた思いや伝えたい内容が言葉足らずで、思ったように十分表現できないことから生まれる人間関係のトラブルも起きている。

こういった現状を踏まえて、物事の内容を的確に読み取る読解力、情報に基づいて自分の考えを持つ思考力、自分の思いを適切に相手に伝える表現力を育てる活動を行った。

本校は今年でNIE推進校として2年目となる。昨年度よりも新聞に対する関心は高まった生徒が増えてきている。

2. 新聞の置き場と整理の方法

本校では、新聞の置き場を図書室にした。新聞は、当日分は図書室の机の上に各新聞社ごとに広げて置き、過去の分はその横に重ねて置いた。本校は昼休みに図書室を利用する生徒が多く、調べ学習等の課題がある際に新聞を活用していた。また、興味のある記事が目にとまったときは新聞を手取る生徒もいた。

3. 取り組み

① 新聞掲示板

本校には生徒玄関に大きな掲示板があり、ポスターや委員会活動の報告などが掲示できるようになっている。この掲示板の一角を用いて新聞掲示板を設置した。



生徒玄関の掲示板

主に新聞の一面記事を中心に、生徒の関心が高そうな記事や生徒に読んでもらいたい記事を教師が選んで掲示した。また、新聞記事を比較できるよう、複数の新聞を掲示している。

生徒や教師は教室に行く際に必ずこの場所を通ることになるので、授業の導入や合間に新聞記事の内容を取り上げることが増え、生徒の関心も高まっていった。

今年度は、新聞が生徒玄関に掲示してあるのが生徒にとっても当たり前となり、毎日のように新聞記事を確認してから教室へ向かう生徒も出てきた。「トランプ大統領就任」等の大きなニュースの際には、数人が集まり、記事を読みながら議論を交わす姿も見られた。授業で新聞記事を取り上げると、昨年度よりもそのニュースを知っている生徒が増え、積極的に発言する生徒が出てきた。

また、国語科の聞き取りテストの題材や社会科、体育科のテストの時事問題、学級活動で行っている一分間スピーチのテーマを新聞記事

から引用することもあり、読んでためになる、読んで得する新聞掲示板になった。

② 壁新聞

単元のまとめや学校行事に関連付けて、壁新聞づくりを行った。3年生では沖縄に修学旅行に行くので、平和学習の一環として『平和新聞』を作成した。

X型の紙面を基本に、どうすれば読者にとって読みやすい紙面、読みたくなる紙面になるかを考えながら記事や写真の配置を考えた。

パソコン教室でインターネットから記事を集めたり、雑誌やパンフレットから情報を集めて記事にしたりしている生徒もいた。インタビューや自分で調べた調査などの記事が少なかったため、今後は自分にしか書けない独自の記事づくりができるように指導していきたい。

完成した作品は廊下の壁に掲示した。たくさんの紙面を見比べることで、記事の配置の良し悪しを考えることができた。また、他者の書いた要点の整理された記事を読むことでテーマごとに学習が深まった。

約1,500文字の原稿に1万字を越える記事を書こうとしている生徒もおり、文章の要点整理、推敲の練習にもなった。

また、今年度は沖縄の平和学習をきっかけに世界の平和についても調べ学習を行った。4～5人のグループに分かれ、「世界の水問題」「難民問題」「原子力発電について」等、新聞やインターネットで調べ、模造紙にまとめた。現在における世界の状況・課題が何かを理解し、「私たちは何ができるか」を考え、提案しているグループもあった。この模造紙で作成した平和新聞は、文化祭で掲示し、生徒・教師だけでなく来場した多くの保護者や地域の方々にも読んでいただいた。



文化祭での平和新聞

③ 新聞要約

2年生と3年生で新聞要約練習を行った。2年生では神戸新聞のHPからダウンロードしたテンプレートを基に、文章の要点がどこにあるのか様々な文章にふれて読解する取り組みを行った。

3年生では、国語のテストで、長文問題に時間をとられているという悩みを抱える生徒が多数いた。そこで、早く文章を読む力、重要な内容を見分ける力を鍛えるために、要約トレーニングを行った。

文章の主題は何か。筆者が伝えたいことは何か。文章の構造はどうなっているか。文章を説明している表やグラフの読み方など、新聞記事の内容は文学作品だけではなく、エッセイや論評など多岐にわたっているため、様々な分野の様々な文体の文章をとおして学習することが

できた。また、記事の内容も教科に関連したもののから、実生活に根差したものなど、要約活動以外の話のネタにもなり、学びを深めることができた。

④ 新聞感想文

1・2年生で様々な新聞記事を用いて、記事に関する150字程度の感想文を書く活動を行った。読書感想文などの「自分の感じたこと」を作文に書くことに抵抗がある生徒が多く、作文の練習を兼ねて行った。国語の授業の始めの10分ほどを使って行い、授業後点検し、優れた作品を選び、次の授業で優秀作品を交流する流れを作った。はじめは苦手だった生徒も他の生徒の上手な書き方や、表現の仕方を真似していくうちに、少しずつ作文を書く時間が短縮され、内容も洗練されたものになっていった。

教師側は、全員が優秀作品として発表されることがあるように配慮した。優秀作品として発表された生徒は自信をつけ、次回も発表されるような感想文を書こうとはりきるようになった。生徒が主体的に書く力を伸ばすことができる教材だと感じた。

⑤ 新聞記事意見交流会

本校生徒は新聞を読んでいても、スポーツ面や芸能面はよく読んで、政治や経済などの社会面に目を向ける生徒は多くない。

政治家の汚職事件や、経済政策の良し悪しなど、生徒にとって一見面白くない内容が多いからだ。専門用語やアルファベットの略字などを読んでいても内容が頭に入ってくるににくいことも理由の一つだろう。

昨年度はTPPについて意見交流会を行った。今年度は、イギリスのEU離脱に関する意見交流会を行った。EU離脱のメリット・デメリットは何なのか、イギリス国民はEU離脱についてどんな意見を持っているのか等を記事から読み取っていった。その上で、「自分がイギリス国民だったらEU離脱に賛成か反対か」

を議論した。

⑥ ひょうご新聞感想文コンクール

今年度も全校生の夏休みの課題として、ひょうご新聞感想文コンクールに参加した。授業で紹介した新聞記事や、学校の新聞掲示板で読んだ新聞記事、家庭で読んだ記事やインターネットで読んだものなど、様々な内容の記事の中から、自分が選んだ記事の感想文を書いて、コンクールに出品した。

⑦ ディベート

2年生は、校外学習で京都へ行った。それと関連させて、国語・社会・総合の教科横断型学習として、京都市の景観についてディベートを行った。社会科で、京都市は昔ながらの日本らしい景観を守るために条例があることを学習した。それを踏まえて、総合の時間にインターネットでどのような条例があるのか、具体的に京都市でどんな対策をしているのかを調べた。

校外学習実施後、国語科で「京都市は、景観保全にさらに力を入れるべきである」という論題でディベートを行った。ディベートを行う前には、肯定側・否定側それぞれの主張の材料を新聞記事やインターネットで調べた。中には、地道に京都に関する記事を探し、あるマンションが、京都市の建造物の高さ制限に違反するかどうかで問題になっているという記事を発見して、自分たちの主張の武器になると喜んでいて生徒がいた。総合・国語科の調べ学習では、教師側が誘導しなくても、生徒自身が積極的に記事を探して、真剣に読み、自分たちの主張をまとめている姿が印象的だった。

⑧ ほっとニュース交流会

今年度も3年生でほっとニュース交流会を行った。

新聞記事の中でも、心あたたまる「ほっとする」記事、心が熱くなる「刺激的な・興奮する」記事、「話題になる・最新の」記事、地球温暖

化などの「あたたかい」記事を調べて交流した。

図書室に保管しておいた新聞記事の中から、自分が気に入った記事を見つけ、次に新聞記事の要点整理をして、記事の概要を書き、記事を選んだ理由とほっとするポイントをワークシートに記入した。

発表は学級のプロジェクターを用いて、書画カメラで自分の作品を投影して行った。昨年度は、自分の心があたたまった「ほっとニュース」を紙面に簡潔にまとめることはできていても、全体の前で言葉にしてプレゼンテーションすると、記事の核心や自分が感じた感動を上手く伝えられない生徒が多くいた。今年度は、全体の前で発表することに慣れてきた生徒が増え、ユーモアを交えて聞き手を楽しませたり、考えの深い意見を言ったりと上達した生徒もいた。

⑩ 道徳教材としての新聞活用

新聞の一面やコラム、投書などから人権問題や社会問題を取り上げた記事、震災関連記事、心あたたまる記事などを取り上げて、道徳の授業の中心読み物にしたり、補助資料として活用したりした。

既存の読み物資料の中には、一昔も二昔も前の社会情勢や見方で描かれた資料があり、指導する際に現在との違いや現状を説明し直す必要があるものもある。

新聞記事を扱う際に有益な点は、最新の情報を取り上げることができることにある。日本社会や世界の情勢、裁判所の判断、人権問題など、今起きていることをすぐに教材にし、議論し学習することができる点で、新聞は日々更新され続ける優れた教材といえる。

⑪ 教職員間の記事交流

新聞記事には、教育問題を取り上げた記事や、文科省の指針の解説などの記事もある。生徒へ情報を発信するだけではなく、教職員研修のために新聞記事を活用する取り組みを行った。

教職員に知っておいてほしい記事を職員数印刷し、朝の打ち合わせの時間や職員会議の時間に短時間で交流した。

国の進める政策の動向や、各自治体が行っている教育の取り組みを目にすることで、自身の教育活動が啓発され職務への意識が高まった。

3. 実践の感想と今後の課題

今年度で2年目となるN I Eの取り組みで、生徒の成長を感じる場面が多々あった。

特に新聞掲示板は、昨年度はほとんどの生徒が素通りしており、教師が授業で新聞記事を取り上げて初めてそのニュースを知る、ということが多かった。しかし、今年度は新聞掲示板を見る生徒が増え、生徒から新聞記事のニュースについて教師の意見を求めてくることもあった。新聞を掲示し、教師が授業で取り上げるという地道で継続的な取り組みの成果が2年目にして少しずつあらわれてきたように感じる。その一方で、ニュースに関心がなく、新聞を読むことに対して受け身な生徒もまだまだ多くいる。自分の周りのことだけでなく、日本の問題・世界の問題について関心を持つ生徒を、N I Eを通じてさらに増やしていきたい。

今年度でN I E推進校としての取り組みは終了するが、これからも新聞記事の掲示や、新聞記事を活用した授業を継続して行っていきたい。